



清和小 三平先生

千葉県の君津市立清和小学校 三平先生からお話を伺いました。
三平先生は、MEXCBT搭載問題や自作問題を活用した自校での授業実践にとどまらず、君津市やその周辺自治体の先生方を対象とした研修会で講師を務める等、全国指折りのMEXCBTの使い手であり、伝道師的な立場としてご活躍されています。
今回は、三平先生に、MEXCBT利活用についてどのような考えで進められているか、MEXCBT活用への意気込みやCBTの考え方についてお話をいただきました。

1. なぜ、MEXCBTを使って問題を作成しようとしたのか経緯を教えてください。

以前からCBTに興味を持っており、文部科学省が児童生徒が学校や家庭において、学習やアセスメントができるCBTシステムを開発したと聞いたので、昨年度申込を行い、4、5、6年生の授業の一部で、千葉県教育委員会提供「ちばっ子チャレンジ100」※1の活用をはじめました。今年度からは、授業内容の定着を目的に、国語、算数、社会、理科の問題作成※2をはじめました。

2. 自作問題を作成する際に、工夫した点、苦労した点、感想等があったら教えてください。

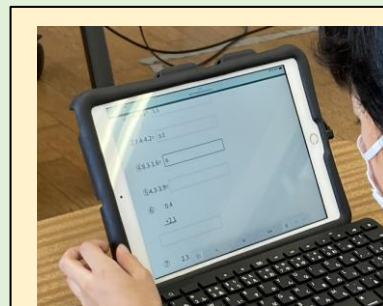
MEXCBTでの問題作成は、原則、私一人で行っています。問題や解答などが思うように表示されない場合は、MEXCBTの運用支援サイト※3を運営する「オンライン学習システム推進コンソーシアム」に協力いただきながら作成しています。

本校では、市販の2種類の端末用ドリル教材を導入しておりますが、MEXCBTの自作問題を、**授業内容と関連付けることができる第3のドリル**として意識しています。**理科の植物の問題では、子供たちが観察実験で撮影した実際の画像を使用して問題を作成する等、子供たちと協働した問題づくりもはじめています。**子供たち自身が撮影した映像資料を使って問題を作成するようになり、**子供たちがより主体的に実験に取り組むようになったと感じます。**実験結果を考察する際には、**映像資料の変化をしっかりと見て考え、根拠のある発表を意識するようになり、思考力・判断力・表現力の育成につながっています。**そのため、単元で身に付けさせたい力を踏まえ、それらが確実に定着するよう意識し、問題作成を行っています。

他には、紙ベースで実施してきた校内基礎学力定着テスト（Seiwa検定※4）を問題にする等、日常の中でCBT化でき、子供たちにも馴染みある取組から進めています。



5年理科「植物の発芽、成長、結実」の問題。
子供たちが観察実験で撮影した画像を使用しており、問題を見た瞬間、子供たちからは歓声が上がりました。



4年算数「小数の加・減」の問題。
問題が分からない子は、教科書やノートで調べ、解答しています。

※1 「ちばっ子チャレンジ100」は、MEXCBT問題検索画面で「問題の種類から選ぶ」「千葉県_提供問題」から、検索・配信することで全国の学校で活用可能です。

※2 清和小学校の作成問題は校内限定公開となっているため、全国の学校から閲覧できません。

※3 文部科学省CBTシステムMEXCBT運用支援サイト <https://support2.mexcbt.mext.go.jp/>

※4 国語、算数の基礎学力を身に付けさせるための君津市立清和小学校作成の独自テスト

千葉県の君津市立清和小学校 三平先生からお話を伺いました。

今回は、三平先生に、MEXCBT搭載問題や自作問題を活用した自校での授業実践に対する児童の反応やMEXCBT活用の今後の展望等についてお話をいただきました。

3. （児童）MEXCBTを使ってみての感想や要望を教えてください。

【よいこと】

- ・昨年度より、見た目がよくなり、不具合も減ったので使いやすくなった。
- ・問題がたくさんあってよい。
- ・採点結果にすぐに分かるのがよい。
- ・解き直しが何度もできる。
- ・自作問題は、全角半角数字、ひらがなや漢字など、答え方の自由度が高くてよい。

【改善してほしいこと】※⁵

- ・どの問題を間違えたのかが分かりにくいのではっきり分かれるとよい。
- ・画面内に、タッチペンでひっ算等ができるメモスペースがあるとよい。
- ・画面の左に問題、右に解答欄がある問題は、スクロールが左右で分けられると見やすい。



問題を解く際、ノートにメモをしながら入力する児童

4. （先生）MEXCBTを使ってみての感想、意見等をお聞かせください。

MEXCBTを使ってみて感じることは、他のドリル教材と同様に**すぐに解ける手軽さ**があるということです。また、MEXCBTで問題を作成してみて、**知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等、子供たちの考えを問う問題づくり**ができるというよさがCBTシステムにはあると感じました。

今後の問題作成では、**実験で子供たちが撮影した動画を取り入れた問題**や、MEXCBTに搭載されている**シミュレーションしながら問題を解くようなCBTならではの問題**を作成していきたいと考えています。

校内においても、国語・算数の基礎学力定着テスト（Seiwa検定）をきっかけとし、**他の先生方にもMEXCBTを授業で取り入れていってほしい**と考えています。本校での事例を市内や近隣市で共有して、活用を進めていきたいです。

最後に、MEXCBT活用で文部科学省に期待することは、子供たちに身に付けさせたい資質能力を育めるCBTとは何かを整理してもらえると、問題作成の指針となるとともに、問題の質の向上につながると考えます。



一斉指導の際は、各教室に配置されている大型提示装置で説明

※5 文部科学省では、いただいたご意見やご要望を参考に、順次、MEXCBTの改善を進めています。